

市内を東から西へ横切る国道1号は、ほとんどそのまま江戸時代までの東海道を広げたものです。

神奈川県内では、最初県央を通っていましたが、平安時代頃から平塚・茅ヶ崎・藤沢あたりの海岸部を通るようになったようです。

① 藤沢市四ッ谷・あふり山^{ようはい}遥 拝の大鳥居

散歩の出発点、藤沢市四ッ谷は本市のすぐ隣で、東海道から大山道へ分け入る所として有名です。今でも旧道入り口には、見上げるほどの道しるべとあふり山（大山）の一の鳥居がそびえています。

【交通】 藤沢駅行きバスで「四ッ谷」下車、徒歩1分。

② 藤沢市二ツ谷・巡礼供養塔

藤沢市境の少し東寄りの分かれ道の松の根元に、高さ80cmほどの石塔が建っています。これは、享和3年（1803）に赤羽根村の城田治右衛門と高田村の守屋兼布が建てた、あふり山（大山）への道しるべです。

読み取れないほど傷んでいますが、「奉巡礼西国板東秩父供養塔」「あふり山 わけいる道に しおり置く つゆのことは しるべともなれ」と刻まれています。

【交通】 藤沢駅行きバスで「二ツ谷」下車、徒歩3分。

③ 風変わりな道祖神

「東小和田」バス停の小和田三郵便局の西を100mほど北に入ると、道辻に道祖神が建っています。

神奈川県は昔から道祖神信仰が盛んで、ここのものは昭和36年に建てられました。長野県あたりの像を模したと思われ、変わった姿をしています。

【交通】 藤沢駅行きバスで「東小和田」下車、徒歩3分。

④ 上正寺 [小和田2-12-73]

上正寺（浄土真宗）には、聖徳太子立像と旧寛永寺石灯籠の2つの市指定文化財があります。

太子像は、聖徳太子自らが刻んだと伝えられ、太子が2歳の時、東を向いて「南無仏」と唱え、手の中から舍利（釈迦の遺骨）がこぼれたという話をモデルにしています。実際は室町後期から江戸初期頃の作と考えられています。

石灯籠は、徳川家の菩提寺の上野寛永寺に歴代将軍の供養のため大名たちが奉献したものの一つで、四代家綱に供えられたものです。

寛永寺からもたらされた石灯籠はほかにも、市役所前庭（3基、十代家治2基、四代家綱1基）と小和田公民館（1基、十代家治）そして浜竹（個人宅）（1基、十代家治）にあります。

【交通】 藤沢駅行きバスで「小和田」下車、徒歩4分。

⑤ 水嶋家のタブノキ [小和田2-12-68]

上正寺の東隣、国道1号に沿った水嶋家の敷地内に、大きなタブノキがあります。樹齢約500年といわれ、東海道の移り変わりを窺ってきたこの巨木は、昔から「オオキ」と呼ばれ、海上の漁師や旅人たちの目印にされてきました。昭和59年「かながわの名木100選」に選ばれ、同61年に市天然記念物に指定されました。

【交通】 藤沢駅行きバスで「小和田」下車、徒歩5分。

⑥ 姥島の歌碑

「小和田」バス停から北側へ約150m、江戸時代の小和田村の鎮守である熊野神社の本殿向かって右手に「相模なる 小和田の浦の宇

婆島は 誰をまつやらひとり寝をする」と刻まれた歌碑（記年銘なし）があります。

地元の伝えでは、伊豆の漁師と小和田の漁師の間で姥島の帰属が問題になった時、小和田の名主がこの歌を証拠に領分を主張したといわれます。

この歌碑に並んで、「尉の姿 輝くばかり春の潮」と、大正末期から昭和初期の茅ヶ崎町長・新田信の詠んだ句碑（昭和30年）があります。姥島の岩礁地帯に、ジンジ、バンバと呼ばれる岩があることから、先の姥島の歌に対応させて「尉」を読み込んだ句です。

【交通】 藤沢駅行きバスで「小和田」下車、徒歩3分。

⑦ 広徳寺 [小和田1-17-5]

国道1号から熊野神社へ向かう左手にあり、宗派は真言宗です。改築前は、本堂の格天井に江戸時代後期の作とみられる花鳥図などの天井絵がありましたが、現在ははずされて別に保管されています。

【交通】 藤沢駅行きバスで「小和田」下車、徒歩1分。

⑧ 千手院 [代官町1-4]

国道をはさみ、広徳寺の反対側（南側）にある、やはり真言宗のお寺です。入口には自然石に寺名を刻んだ標注があります。境内に、江戸時代の閻魔堂があり、立像の閻魔十王が安置されています。ほかに境内には、見事な宝篋印塔（元文2年：1737）や、市内ではここだけに見られる木食観正塔（文政2年：1819）があります。

【交通】 藤沢駅行きバスで「小和田」下車、徒歩1分。

⑨ ぼたもち茶屋・七里役所

『新編相模国風土記稿』の小和田村の項に、「牡丹餅／海道立場を言

ふ」と出ています。その場所は、今の「菱沼」バス停付近といわれています。この辺りは、街道の東西からの高みの頂で、昔は海まで見通せました。江戸時代、ここに茶屋があり粟ぼたもちを売っていたので、いつしか「ぼたもち茶屋」といわれました。南湖の立場と藤沢宿の中ほどで、旅人たちの格好の休み場所でした。

江戸時代には、「七里役所^{しちりやくしょ}」と呼ばれた紀州藩の飛脚中継所もありました。そこにいた役人「七里様」の墓といわれる石塔が、松林三丁目の長福寺（25頁）にあります。

【交通】 藤沢駅行きバスで「菱沼」下車辺り。

⑩ 六本松の刑場跡と泪橋^{なみだばし}

京急自動車学校の東、松林中学校の前のあたりは、鎌倉時代の刑場跡といわれています。砂丘の上に大きな松が6本あったことから「六本松」という小字名が残ります。ここからは五輪塔などが発掘されたといえます。

かつて、上正寺（小和田2丁目）の東側に、東海道を横切る小川があり、土橋が架かっていました。受刑者が東の方からそこまで引き連れて来ると、西に大きな六本松が見え、「刑場が近い」と涙を流したということから、その橋を泪橋といいました。

【交通】 藤沢駅行きバスで「松林中学校前」下車。

⑪ 東海道の松並木

神奈川県立茅ヶ崎高校の西から「松林中学校入口」信号の東まで、約600mの間に、かつての東海道松並木の名残が見られます。

江戸幕府により整備された松並木は、戦後その姿を消し、市内では他に元町の一里塚付近と藤沢市境に見られるだけになりました。

ここの松並木は、大磯のそれに並ぶ貴重なものとして、有志による

保存運動が実を結び、昭和62年、歩いて楽しめる街道へと整備され面目を一新しました。

【交通】 藤沢駅行きバスで「茅ヶ崎高校前」または「松林中学校前」下車。

⑫ 海前寺^{かいぜんじ} [本村4-21-34]

⑪で紹介した国道1号沿いの松並木から、西に約200m進み、「市立病院入口」の交差点を北に入ると、左手に海前寺があります。

海前寺は天正19年（1591）の草創と伝えられます。山門の前を東西に延びる道は、鎌倉時代に幕府と京都を結んだ「鎌倉街道」といわれています。

海前寺の墓地の一角に、江戸幕府の大筒役で、鉄砲場の責任者^{てっぽうば}だった佐々木卯之助の供養碑があります。幕府に無届けで鉄砲場内の新田開発をした罪で、天保6年（1835）、息子菊次郎とともに青ヶ島に島流しになり、明治9年（1876）、島で死亡しました。しかし、南湖では、百姓のために田を開いた恩人として敬っていたそうです。

卯之助の碑の隣に、村娘の悲劇で知られる「くるま地蔵」があります。また、墓地には、戦後のボクシング界に「ピストン堀口」の名で知られた堀口恒男（1914～1950）の墓もあります。この副碑は作家の井上靖の選文です。

【交通】 藤沢駅行きバスで「本村」下車、徒歩5分。

⑬ 八王子神社 [本村4-13-40]

海前寺の前の道（鎌倉街道）を西に進むと、江戸時代の茅ヶ崎村の鎮守だった八王子神社があります。境内には3基の庚申塔（寛文4年：1664、同7年：1667、延宝8年：1680）があり、ともに市内では古いものに属し、三猿の彫刻が見事です。



